

■**児玉源太郎** 陸軍軍人。視野の広い戦略家で、<日露戦争>の作戦を指導、華々しい功績を挙げても、直後に病没。

こだまげんたろう

**万次郎帰国**・1852＝ 長州徳山藩(興讓館)目付・児玉半九郎の長男に生まれた。

**ペリー来航**・1853＝ 1歳：

**安政大地震**・1855＝ 3歳：父が藩主に攘夷論を上申して謹慎処分を受け、まもなく悶死、

家を姉の嫁いだ(島田塾)の俊才庵之丞が継ぎ、自らも(島田塾)に学んだ。

**桜田門外変**・1860＝ 8歳：

**遣欧使節**・1861＝ 9歳：

**薩摩藩士密航**1865＝13歳： 庵之丞が<禁門の変>に絡んで討ち入りされた上、処刑されるという衝撃的事件を経て、**家督を相続**、

**薩長同盟**・1866＝14歳： **<長州征伐>の戦鬨で初陣**、

**明治維新**・1868＝16歳：

**戊辰戦争終**・1869＝17歳： **徳山藩半隊に属して、箱館戦争に従軍。新政府の陸軍練習生となり**、

**初の日刊新聞**1870＝**18歳**： **長州の反乱征討で頭角を現し、卒業して下士官に任じられた。**

その後、異例の出世を重ね、

**学問のすすめ**1872＝20歳： **陸軍大尉に昇進し、大阪鎮台副官心得を命じられる。**

**明治6年政変** 1873＝21歳：

**佐賀の乱**・1874＝22歳： **佐賀の乱に参謀として出征し、両腕に貫通銃創を受けるなど九死に一生を得て帰還。**

**三つの反乱**・1876＝24歳： 熊本鎮台に転属して準参謀となる。岩永半四郎の娘と結婚。

**西南戦争**・1877＝25歳： **西南戦争では、参謀として谷干城を助けて熊本城に籠城、攻防50日を耐えぬく。**

**大久保暗殺**・1878＝26歳： 終戦後、近衛局に出仕、

**琉球処分**・1879＝**27歳**： **中佐に昇進し、東京鎮台歩兵第二連隊(佐倉)長となる。**

**明治14年政変**1881＝29歳：

**岩倉具視没**・1883＝31歳： 大佐に昇進、

**内閣発足**・1885＝33歳： **\*参謀本部の管東局長に就任後、陸軍大学校が開校され、初代校長に就任。メッケルの指導のもとに参謀養成教育を確立する。**

**初の対等条約**1888＝**36歳**：

**帝国憲法発布**1889＝37歳：

**帝国議会始**・1890＝38歳： 少将に栄進、

**足尾鉾毒始**・1891＝39歳： **陸軍制度の比較研究のため、ヨーロッパに派遣され、**

**大本教**・1892＝40歳： **帰国して中将に昇進するとともに、陸軍次官兼軍務局長に就任、大臣だった陸軍大山巖との親交が始り、**

**日清戦争始**・1894＝42歳： **\*日清戦争では陸軍次官兼軍務局長として、大山巖陸軍大臣が出征中の軍政の責任者となる。**

**八幡製鉄始**・1897＝**45歳**：

**子規句歌革新**1898＝46歳： **第4代台湾総督に任命されると、後藤新平を民政局長に抜擢し、台湾の反乱鎮圧に成功、**

**ビア/国産化**・1900＝48歳： **第4次伊藤内閣で陸軍大臣、**

**田中正造直訴**1901＝49歳： **桂内閣で内務大臣、**

文部大臣を兼任後、

**日比谷公園**・1903＝51歳： **対ロシア戦争に備えて参謀次長に就任。朝野ともに“児玉の要”という語が通用するに至る。**

**日露戦争始**・1904＝52歳： **\*大将となり、日露戦争で満州軍参謀長として、陸軍作戦指導で華々しい功績を挙げ、**

**日露戦争終**・1905＝53歳： **勝利に導いたが、**

**満鉄発足**・1906＝**54歳**： **\*参謀総長就任後、病没した。**